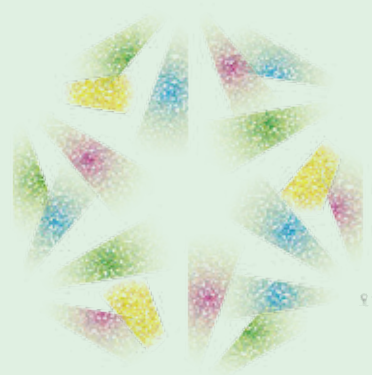




和'S YAMATO (わずやまと) 春号 2018



—特集「西郷どん」—

- ◎西郷隆盛と安政の大獄
- ◎島妻 愛加那との平穏な日々
- ◎幕政に復帰するも、久光と衝突し遠島処分
- ◎沖永良部島で「敬天愛人」思想を確立
- ◎西郷待望論にこたえて島を離れる

- ◎郷土史跡めぐり(群馬県渋川市・みなかみ町)
- ◎福沢一郎と版画制作
- ◎一お客様紹介— 株式会社スギヤマ様
- ◎赤城南面千本桜

須藤和之 画
紅白梅



赤城南面千本桜まつり 2018年4月7日(土)～4月22日(日)
桜まつり日程は桜の開花状況により変更になる場合があります。

和'S YAMATO (わずやまと) 春号(第36号) 2018

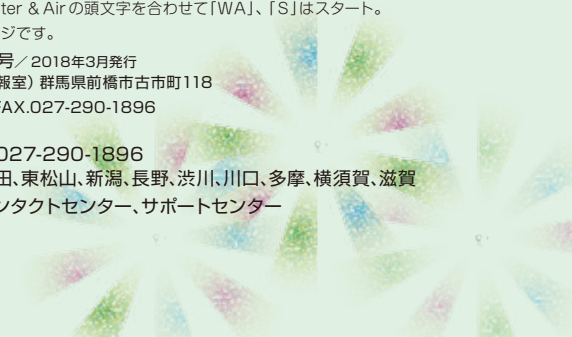
建設プロダクト **ヤマト**

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所／軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀
附属施設／大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

『和'S YAMATO』の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。
ヤマトが発信するメッセージです。

和'S YAMATO 2018 春号／2018年3月発行
発行：株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118
TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896



西郷どん

(せごどん)

西郷隆盛と安政の大獄

嘉永六年（八五三）、アメリカのペリーが浦賀に来航し、日本の国論は開国派と外国を討つ攘夷派に二分された。薩摩藩主の島津斉彬（なりあきら）は開国派で、幕政に参画する意欲を持っていた。斉彬は安政元年（八五四）に参勤交代で江戸に行くとき西郷隆盛を帯同する。西郷は、斉彬が薩摩藩内で行った人材発掘と登用の政策を採用した際、何通もの藩政改革の上申書を提出し、斉彬の目に止まっていたのだ。江戸に同行した西郷は、斉彬の薫陶を受け、水戸藩の藤田東湖、越前藩の橋本左内など開国派の論客と交流を持つ。諸藩の有志から、薩摩に西郷ありとの評判が立つほどになっていた。

薩摩、水戸、越前の各藩は、開国した後、中央集権国家の樹立を目指して、一橋慶喜を次期将軍に推す「一橋派」として団結し、慶喜擁立を諸藩に働きかけていた。この対抗勢力が彦根藩主の井伊

直弼だった。井伊は、外様大名の島津藩等が幕政に参画しようとする動きを封じ、徳川譜代の大名が中心となって政務を行うのがふさわしいとする立場をとり、紀州徳川家の徳川家茂（いえもち）を次期将軍に推す「南紀派」の代表で、両派は激しく対立していた（将軍継嗣問題）。一橋派は、幕府の老中・阿部正弘が中心となり、島津斉彬の幕政参画を後押しし、西郷も斉彬の家臣として国政に関わる大望を抱いていた。一橋派は将軍継嗣で優位に立ち、徳川慶喜が天皇から指名を受ける手はずを整えたが、安政四年（八五七）に阿部正弘が急死する。阿部に代わって幕政を掌握したのは大老の井伊直弼だった。井伊は、政敵の一橋派を弾圧した（安政の大獄）。折悪しく、安政五年には一橋派の中心だった島津斉彬が急死し、西郷は後ろ盾を失ってしまう。

安政の大獄により、西郷とともに徳

島妻・愛加那と平穏な生活を送る

西郷隆盛は安政五年（八五八）十二月に鹿児島県の山川港から砂糖運搬船に乗り、十二日間かけて奄美大島の阿丹崎に到着した。島に来た当初、西郷は文化や風習が異なる島の住人とは関わりを持たずに、空き家に住んでいた。しかし、島民は西郷の人柄に触れるうち、次第に西郷を慕うようになり、西郷も先入観を捨てて島民と向き合い、互いの距離が縮まっていく。二カ月後には島の名門で郷士格の龍（りゅう）家の離れに移転した。安政六年三月から二年八月間、この家に住み、島での生活に慣れていた。島妻となる愛加那は龍家の一族で、西郷の住まいから徒歩で五分ほどの至近距離に住居があった。

西郷は、芋堀をしている愛加那に声をかけて手伝いをしたり、次第に親密になつていく。愛加那はよく働く女性として世間の評判がきわめてよかった。後には木綿の藍染や大島紬の織物にも習熟し、近隣の女性たちに手ほどきするほど上達したという。顔は面長で、漆黒の髪と黒い瞳の美人であったという。

西郷は、鹿児島には二度と戻れないと覚悟したのかもしれない。島の生活に慣れていき、島の子供たちとも仲良

くし、学問を教えるようになった。西郷に対する周囲の尊敬が高まるに連れ、龍家一族の中から女性を入れて西郷の身の回りの世話をさせようとの話が持ち上がり、愛加那に白羽の矢が立った。こうして西郷と愛加那は安政七年（八五九）十一月に結婚することとなる。祝言をあげた翌年には、長男の菊次郎が誕生した。

菊次郎の誕生後、西郷は家族の住居を新築した。西郷は罪人ではないので、藩から扶持（ふち）米が十二石（後に二十四石）が与えられており、島に腰を落ち着けようと考えたのかもしれない。しかし、新居が落成した翌日、薩摩藩主から鹿児島に帰還するようにとの召喚状が届いた。この時、愛加那は二人目の子供を身ごもっていた。

安政八年一月、西郷は家族や村人たちと別れを惜しみつつ奄美大島を離れた。当時の決まりで、島妻を鹿児島に連れ帰るのは禁じられていたため、西郷は断腸の思いで妻子を残し奄美大島から離れたのである。西郷が愛加那と夫婦として暮らしたのは二年二月月ほどの短い期間であった。

西郷隆盛と幕末・明治維新

明治維新に大きな役割を果たした人物として、西郷隆盛は根強い人気を持っている。平成30年のNHK大河ドラマ「西郷（せご）どん」では、三回の結婚、三回の島流し、郷里の盟友・大久保利通との決裂など、西郷隆盛の波乱に満ちた生涯が描かれる。

川慶喜の将軍擁立に動いた橋本左内は処刑され、朝廷工作で西郷と連携していた清水寺の僧・月照も弾圧の対象となる。西郷は月照を匿うために薩摩に向かうが、薩摩藩は幕府の追及を恐れ、西郷と月照の入国を拒否し、日向の国（現在の宮崎県）に行くように命じる。これは、薩摩と日向の国境で月照を処刑せよとの密命であり、西郷はその役を与えられたと考えられる。

日向の国に入れば二人とも幕府方

に捕らえられて処刑されるであろう。西郷が生き延びるには、薩摩藩内で月照を切り捨てることだが、仲間を裏切るとは到底できない。西郷と月照は船で日向に向かったが、進退窮まった二人は錦江湾に身を投げ、入水自殺を図った。月照は水死したが、西郷は（命を取り留めた。薩摩藩は西郷も死亡したと幕府に届け出をし、安政五年（八五八）十二月、名前を菊池源吾と改名し、奄美大島に送ったのである。



月照上人遺跡之碑（鹿児島市）



西郷隆盛蘇生の家（鹿児島市）



島津久光



西郷隆盛と愛加那の木像

藩命により奄美大島に潜居した西郷は当時三十一歳、武人らしい羽織袴姿で、遠く鹿児島を見つめる青年西郷を表現している。愛加那像は、二人の子供（菊次郎、菊草）を手のひらに乗る二羽の鳥の姿とし、愛加那のやさしさと強さを表現した。



西郷翁上陸の地（奄美大島）

西郷（菊池源吾と変名）を乗せた薩摩藩の黒糖積船は、奄美大島のこの地に着岸し、松の木にともづなを結びつけた。村人たちはこの松を西郷松と呼ぶようになった。現在、この松は枯れて、石碑が置かれている。

奄美大島の西郷南洲謫居跡



西郷南洲謫居跡の内部

西郷と島妻の愛加那が住んでいた。この新居に住んだのは二月足らずで、鹿児島への帰国命令が下された。長男菊次郎（後の京都市長と娘の菊草は西郷本家に引き取られ、愛加那は一人でこの家で過ごし、六十六歳で死去した。家は6畳と8畳の二間で、西郷と愛加那のゆかりの品が展示されている。



タキシード姿の西郷の肖像看板

西郷が京都、江戸など国事の中心地から遠ざかっていた時期に、江戸では大事件が起こっていた。安政七年（一八六〇）三月、桜田門外の変で井伊直弼が暗殺されたのである。暗殺を実行したのは水戸藩の浪士十七名と、薩摩藩士一名だった。井伊直弼による安政の大獄に反発する水戸藩士は、井伊直弼の暗殺を計画し、さらに薩摩藩士の中にも同調する者があった。薩摩藩士で計画に加わったのは西郷が率いた精忠組という藩内組織の二団で、水戸と薩摩で襲撃計画が出来上がった。この動きを察知した島津久光は、藩士の脱藩を禁じたために、精忠組の大半は襲撃計画から離脱した。しかし、薩摩藩の有村次左衛門だけが、離脱は水戸藩に申し開きが立たないと襲撃に加わった。有村の兄は西郷とともに精忠組で活動した有村俊斎だった。西郷も水戸藩とは深い親交があったので、道義を通ず性質の西郷が江戸にいたら、有村とともに襲撃したとも考えられる。

江戸城下の彦根藩邸のすぐそばで起こった凶事により、徳川幕府の権威は大きく失墜した。朝廷と幕府を結びつけ、幕藩体制の強化をはかる公武合体派が

藩政に復帰するも、久光と衝突し遠島処分

勢力を増し、孝明天皇の妹・和宮が十四代将軍・徳川家茂に降嫁した。将軍継嗣問題などで悪化していた朝廷と幕府の関係改善が図られたが、和宮降嫁は幕府から朝廷に働きかけて実現したもので、朝廷を動かして尊王攘夷を実現しようとする各地の過激な志士たちからは強い反発を受けた。

文久二年（一八六二）、久光は、腹心の部下である大久保利通が西郷の赦免を願い出ていることや、藩内で信望のある



徳之島の西郷公園にある西郷南洲翁の紹介揭示板

光の命令で徳之島への遠投に処されるのだった。

文久二年（一八六二）六月、西郷は鹿児島山川を出帆し、七月初旬に徳之島の湾屋港（薩摩藩指定の砂糖積出港）に上陸した。この時西郷は三十六歳で、この地に長期間滞在することを覚悟したという。遠島といっても自由を奪われることはなく、住まいを定め、農具を用意し、自ら畑を耕して自活していた。西郷は、奄美大島にいる愛加那と子供を呼び寄せることとし、同年八月二十六日、妻子は西郷と再会を果たす。しかし、その喜びもつかの間、島津久光は西郷に徳之島からさらに遠方の沖永良部島に送る命令を下し、妻子との再会を果たした同日に、久光の命令書を持えた船が徳之島に到着したのである。

久光は西郷を罪人として徳之島に遠島したにも関わらず、藩の家老たちは西郷を牢に入れることなく、寛大な対応をしていた。これに対し久光は処分が甘いと憤り、沖永良部島では部屋を囲い見張り番をつけろと通達した。西郷は泣き崩れる愛加那に対し、子供を連れて奄美大島に帰るように諭した。親子での生活を描いたもののわずか二日間ですぐ別れるという過酷な仕打ちだった。



西郷公園にある西郷南洲顕彰碑



西郷公園にある西郷南洲顕彰碑



徳島仲祐（とくしまなかゆう）の墓

徳島仲祐は囚人西郷の身辺の世話をしてるうちに、西郷に心酔した。西郷赦免後、一八六六年、仲祐は鹿児島西郷家に行き、京都への同伴を願い出た。西郷は仲祐を京都に連れて行ったが、京都の寒さが厳しく病気で亡くなった。仲祐は幕末の討幕運動に参加したただ一人の奄美大島出身者だった。



西郷南洲先生謫居跡の碑

西郷はこの地で六十九日間過ごした。



徳之島の景勝地 犬の門 蓋いんのじょうふた

季節風や荒波によって浸食された断崖・奇岩で、メガネのようにくりぬかれた空間から海と空の景観を覗き見ることができ



三個の卵型の石は村の青年たちとの交流の際、力比べに愛用された「力石」。西郷の底知れぬ怪力に若い猛者たちもかぶとをぬいだそう



徳之島から沖永良部島に向かうフェリーの通路に貼られている「西郷どん」のポスター



西郷南洲記念館外観

西郷南洲記念館でわかりやすく解説をされているガイドの宗淳氏



西郷南洲記念館（和泊町歴史観光交流館）

西郷待望論に込めて島を離れる

薩摩藩内で実権を握る島津久光は、幕府に対して武力を背景にした幕政改革を迫ろうと考えていた。勅命を受けて江戸城に乗り込み、一橋慶喜の将軍後見職への就任、松平春嶽の大老就任といった自藩の要求を実現させた（文久の改革）。朝廷を利用し、幕府に意見を出

す機会を増やすには、島津斉彬と朝廷工作を行った実績のある西郷の力が必要と考えた。西郷待望論は藩内にとどまらず、京都、江戸でも膨らんでいる。久光は西郷を赦免し、西郷を乗せた船は元治元年（一八四四）二月、沖永良部島の和泊港から鹿児島島へ向け出帆した。

敬天愛人発祥の地の碑

西郷はこの地で学問に励み精神を鍛錬して天地自然の理を悟り、敬天愛人の思想を完成させたという。



土持は酒肴の準備をしたが、それを固辞し、自ら二坪ほどの牢屋に入った。牢内では粗食を通し、静座して読書、沈思黙考の毎日を通し、日に日に衰弱していった。政照はその様子を見て大変心配し、牢屋の改築を代官に願い出て、そ

沖永良部島和泊町の南洲神社

南洲翁を祭神として明治35年に建立。西郷南洲記念館から徒歩5分ほど。



社殿

南洲神社の西郷南洲銅像



土持政照生誕地の碑



西郷隆盛上陸地の碑



西郷を支え師と仰いだ土持政照の胸像（右）



西郷南洲謫居の地の碑

沖永良部島で「敬天愛人」思想を確立

文久二年（一八六二）八月十四日、西郷を乗せた船は沖永良部島の伊延港に到着した。港からは島の役人・土持政照が役所の隣に造られた牢まで案内した。牢は港から4キロほど離れた場所であり、西郷は乗馬を勧められたが「沖永良部の土を踏ませてくれ」と徒歩で向かったという。この土地で最期を迎えるとの思いがあつたのかもしれない。また、

土持は酒肴の準備をしたが、それを固辞し、自ら二坪ほどの牢屋に入った。牢内では粗食を通し、静座して読書、沈思黙考の毎日を通し、日に日に衰弱していった。政照はその様子を見て大変心配し、牢屋の改築を代官に願い出て、その許可を受け、牢屋が出来上がるまでの間は土持家で謹慎することとなった。政照と母のツルは、西郷の健康を回復させるために真心をこめて介抱し、健康状態は日増しに良くなったという。新しい牢屋に移ると、西郷は牢中で「敬天愛人」の思想を完成させ、西郷を慕って集まった島民が牢外から西郷に教えを受けた。



牢は四畳半と廁だけの劣悪な環境だった。写真は西郷南洲記念館の敷地内にある復元された牢屋跡。



座敷牢に移った西郷は、政照の頼みを聞き入れて島の青少年に学問を教えた。教えを受けた若者は、後に島の発展に大きく貢献する。



西郷と政照は互いに心を許し、強い信頼関係が結ばれ、西郷から義兄弟の契りを結びたいと申し出があり、盃を取り交わした。西郷35歳、政照28歳だった。

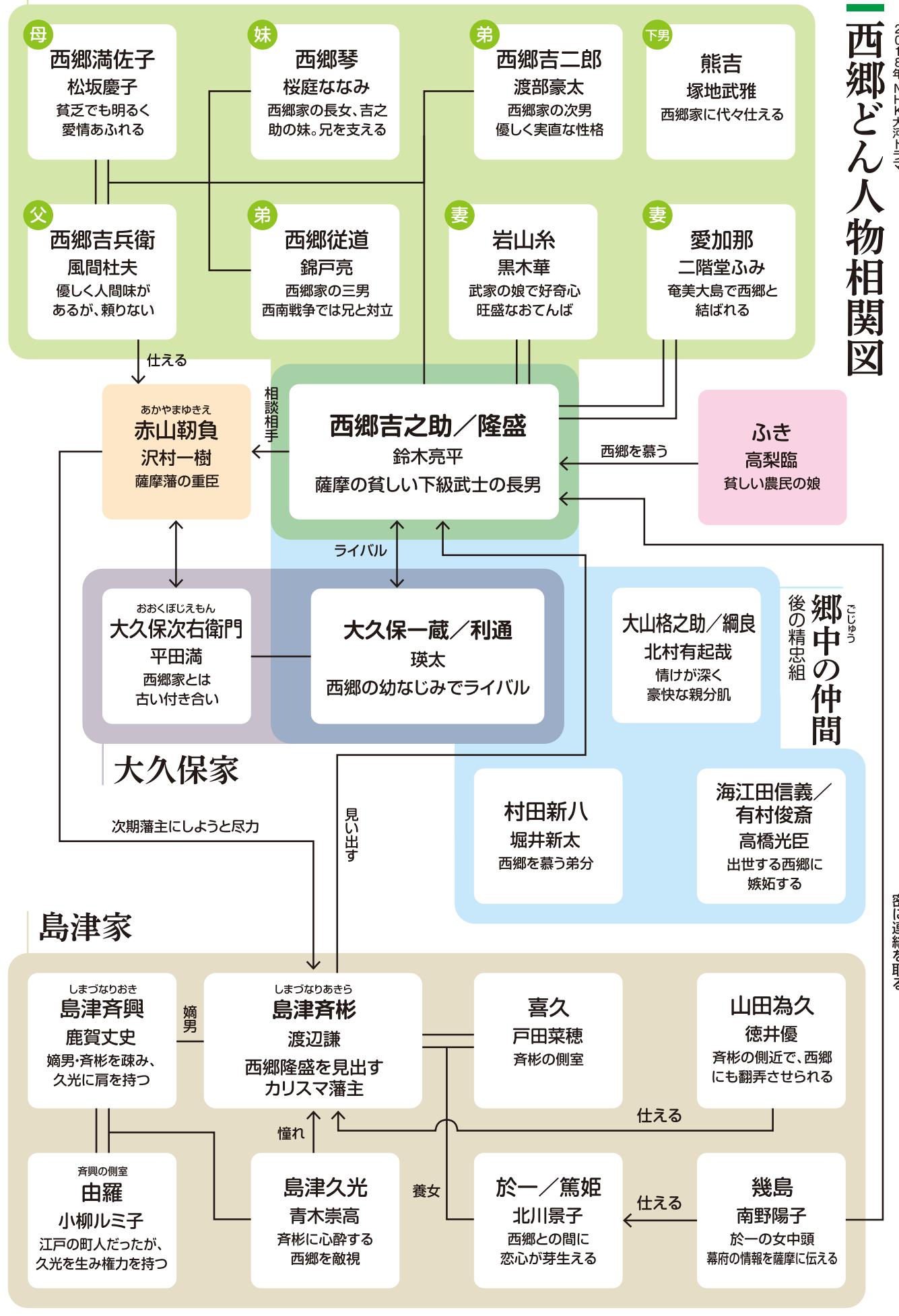
文政10年(1827)	1才	鹿児島で誕生
天保10年(1839)	13才	ケンカの仲裁で怪我を負って刀を握れなくなり、勉学に励む 蜜社の獄で高野長英や渡辺華山などが捕えられる
天保11年(1840)	14才	アヘン戦争始まる(2年後に終わる)
天保12年(1841)	15才	天保の改革(水野忠邦)
弘化1年(1844)	18才	郡方書役助(こおりかたかきやくたすけ)に任命される
嘉永2年(1850)	24才	農政に関する建白書を提出 お由羅騒動勃発・赤山靱負の切腹で号泣する
嘉永3年(1851)	25才	ジョン万次郎が帰国
嘉永5年(1853)	27才	家督を継ぐ ペリー来航(翌1854年に日米和親条約)
安政1年(1854)	28才	島津斉彬のお庭方となり江戸・政界工作に携わる 藤田東湖と出会う
安政2年(1855)	29才	橋本左内と出会う
安政4年(1857)	31才	篤姫と徳川家定が婚姻
安政5年(1858)	32才	日米修好通商条約に調印(松平忠固が推し進めた) 島津斉彬が急死 安政の大獄で追われ、月照と共に入水・奄美大島で蟄居
安政6年(1859)	33才	吉田松陰に死刑
万延1年(1860)	34才	桜田門外の変 和宮親子内親王が徳川家茂へ降嫁
文久2年(1862)	36才	奄美大島から帰還 寺田屋事件で薩摩の攘夷派が島津久光に粛清される 島津久光の怒り描い、今度は徳之島&沖永良部島へ 生麦事件 高杉晋作らの英国公使館焼き討ち事件
文久3年(1863)	37才	新撰組の前進・壬生浪士が結成される 長州藩が下関戦争(英・仏・蘭・米) 薩摩藩が薩英戦争 8月18日の政変で長州藩を京都から追放
元治1年(1864)	38才	再び赦されて、京都における薩摩藩責任者となる 池田屋事件(長州藩の攘夷派が新撰組に討たれる) 禁門の変で薩摩&会津が長州を京都から追放 佐久間象山が暗殺される 第一次長州征伐で長州はソク白旗
慶応2年(1866)	40才	西郷隆盛と木戸孝允、薩長同盟を結ぶ アーネスト・サトウが『英国策論』を執筆
慶応3年(1867)	41才	明治天皇が即位 徳川昭武がパリ万博へ 高杉晋作が結核で死亡 徳川慶喜が大政奉還に応じる 坂本竜馬と中岡慎太郎が暗殺される(近江屋事件) 庄内藩が江戸藩邸を焼き討ち
明治1年(1868)	42才	鳥羽伏見の戦いをもって戊辰戦争が始まる 江戸城無血開城を主導 会津戦争・北越戦争・上野戦争・箱館戦争
明治2年(1869)	43才	版籍奉還
明治4年(1871)	45才	廃藩置県 岩倉使節団が欧米へ・西郷らが留守を預かる
明治6年(1873)	47才	征韓論を機に下野し、鹿児島へ
明治7年(1874)	48才	鹿児島に私学校を設立 佐賀の乱で江藤新平が死亡
明治8年(1875)	49才	秩禄処分で士族の家禄等が剥奪される
明治9年(1876)	50才	廃刀令により士族は帯刀の特権も奪われる 神風連の乱・秋月の乱・萩の乱
明治10年(1877)	51才	西南戦争

鹿児島市の西郷隆盛銅像。わが国初の陸軍大将の制服姿。城山を背景に桜島を見据えている。昭和十二年(一九三七)五月完成。高さ約八メートル。



西郷隆盛と関連事項の略年表

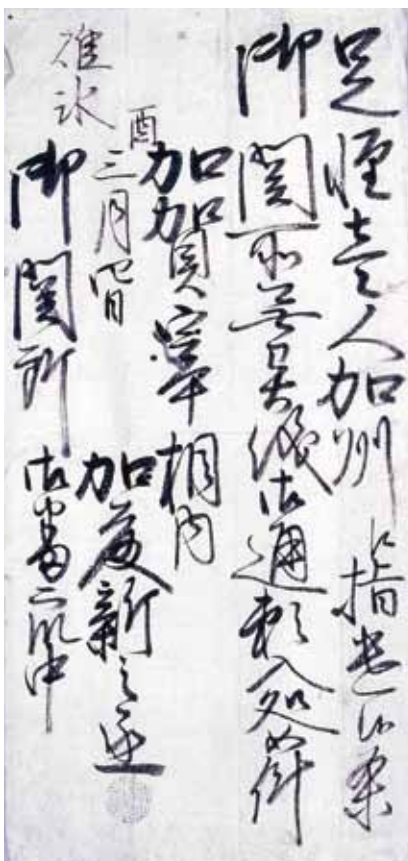
西郷家



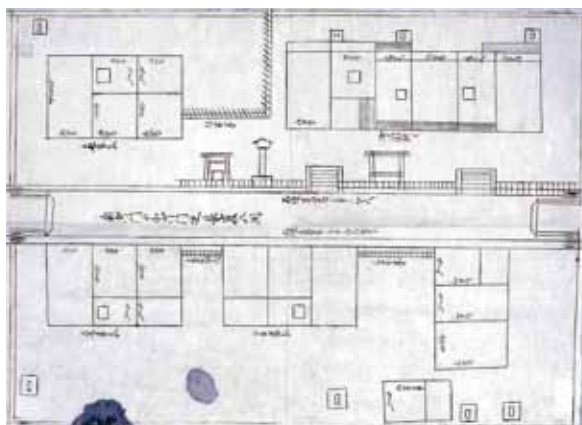
西郷どん人物相関図

2018年NHK大河ドラマ

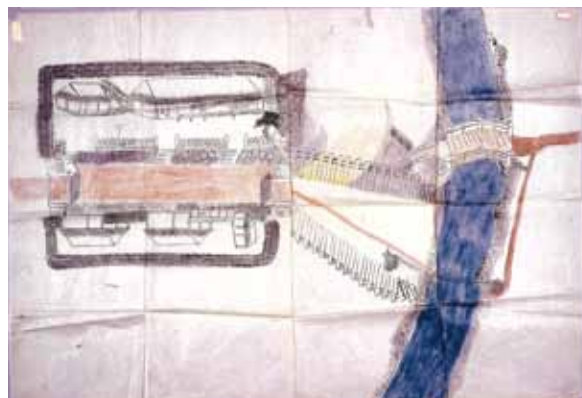
密に連絡を取る



通行手形 田中博氏蔵



幕末の空ヶ橋関所絵図(左上が田中家) 田中博氏蔵



関所から川に至る絵図(左の囲いが関所) 田中博氏蔵



関所の建物。内部が資料館になっている。



猿ヶ京関所資料館

猿ヶ京関所(みなかみ町)には、三国街道の途上にある赤谷川が流れており、川越を許可するための人物改めや物資の管理が行われ、「入り鉄砲、出女」を厳しく取り締まりました。猿ヶ京宿場の近くには良質な温泉(現在の猿ヶ京温泉)が出てい

猿ヶ京関所跡

群馬県指定史跡

たこともあり、越後方面からも湯治客が訪れていました。猿ヶ京関所は昭和五十九年に群馬県の史跡に指定され、内部は資料館として関所や三国街道に関連する資料が展示されています。

空ヶ橋関所(渋川市)は旧三国街道と吾妻川が交差する位置にあります。吾妻川を渡るには、空ヶ橋関所を通過しなければなりません。この関所は大坂の陣(慶長十九年(六四四))の年に番所として設けられ、寛永二十年(六四三)に正式に関所として定められました。上州では碓氷峠の関所に次いで重要な関所と位置付けられ、佐渡奉行、新潟奉行、越後の諸大名や旅人が通行しました。

高崎藩からは目付一人、与力二人が派遣されていましたが、任期が2ヵ月のため、実質的な管理は、定番人(じようばんにん)と呼ばれる長谷川、田中、砥柄(とづか)の三氏が行っていました。定番人は世襲で、その役宅は「定番屋」と呼ばれていました。

定番屋のうち、田中家役宅が現存し、江戸時代末期の建築と推定されています。同家は群馬県に残る江戸時代に建てられた現存する数少ない旧関所定番屋の建物で、貴重な文化遺産です。関係古文書とともに、昭和二十六年に群馬県の史跡に指定されています。

取材協力：田中博氏・須田孝氏(白井宿観光光案内人の会長)・中嶋辰哉氏(渋川市教育委員会教育文化財保護課主事)
参考資料：「上州の重要家系をたずねる」群馬県文化財研究会編



現存する田中家役宅(定番屋)と当主の田中博氏 間口6間、奥行き3間半の茅葺



吾妻川にかかる橋の土台となった大石 石に穴を開け木製の別橋(はねばし)の土台にしたと思われる



吾妻川に通じる道 左側は田中家

上州の三国街道

群馬県指定史跡

三国街道は、高崎から越後の寺泊までの30宿、48里(約192km)の街道です。上州の三国街道上にある関所としては、空ヶ橋関所と猿ヶ京関所があります。空ヶ橋関所は中山道の碓氷関所に次ぐ重要な関所で、高崎宿から三番目の金井宿と四番目の北牧宿の間に設置されました。高崎宿から十三宿目にある猿ヶ京宿には、寛政八年(六三三)に関所が設けられました。

郷土

史跡めぐり〈群馬県 渋川市・みなかみ町〉

福沢一郎版画展

2018年2月15日(木)ー4月20日(金)
株式会社ヤマト本社1階ギャラリーホール **入場無料**
開館時間…10時〜17時 休館日…土・日・祝日

福沢一郎と版画制作

元群馬県立近代美術館学芸員 染谷 滋

福沢一郎とはどんな人

福沢一郎は群馬県出身の美術家の中で、文化勲章を受章したたった二人の作家です。名誉県民にも選ばれています。文化勲章を受章するには、だれもが認める優れた業績を挙げるだけでなく、長生きする必要があります。それは、該当者が多くてなかなか順番が回ってこないからです。福沢一郎は93歳でこの榮譽を手に入れました。もともと福沢自身は他人が与える評価には無関心で、周囲の人が喜ぶからもらっとくよ、という程度でした。

文化勲章を受章するには、その前に文化功労者選ばれてなければいけません。福沢一郎が1978年に文化功労者に選ばれたとき、「変わったのは政府で、俺じゃないよ」と言って話題になりました。これは、戦時中に反社会的な思想の持ち主ではないかと疑われて、半年余り取り調べを受けた経験があっ

たからです。

自分の信じる道を曲げず、ぶつぎらばうで人情が厚いいかにも上州人特有の性格の持ち主である福沢一郎は、東京帝大(現在の東大)に入学するほどの明晰な頭脳の持ち主でした。戦前は前衛絵画のリーダーとして祭り上げられました。シュルレアリスム(超現実主義)という当時の最先端の画風を日本に紹介し、美術文化協会という団体を組織して若者たちを指導します。社会を諷刺するような作品が多かったため、その当時の政府からいらまれたのです。

信念を曲げない性格でしたから、画家仲間との軋轢も絶えませんでした。美術文化協会結成の直前まで参加していた独立美術協会では、福沢の退会届を受け取らず、除名処分としたほどです。

戦後の福沢一郎は、付き合いの面倒

福沢版画の楽しみ方

福沢一郎は、「版画はあまり好きでなかった」と語ったことがあり、絵画が主で、版画は余技的なものと思われていますが、実際はそうでもありません。

福沢の版画で確認できている一番古いものは1955年の作品です。57歳のときのもので、それまでは版画に興味が無かったのは確かでしょう。でも一度始めると納得するまで何度でもチャレンジするのは、福沢一郎らしい取り組みです。以後、断続的ではありますが、亡くなる年まで版画の制作が続いています。

福沢一郎の全版画作品を網羅しようと試みた、『福沢一郎全版画集』(2002年、玲風書房)も没後になって出版されたほです。そこには146点の版画作品と、試作と思われるものや、絵画を元に制作された複製版画も収録されています。大変貴重な版画集となっています。それほど、福沢版画は注目されている訳です。

今回の展示では、1956年の『夜の鳥』が一番古い作品で、福沢版画の中でも最初期の作品です。リトグラフ(石版画)という技法で、刷ったのは利根山光人という画家です。

版画は刷る技術が難しく、福沢のよ

専門家に任せるのが普通です。浮世絵のような木版画でも、原画を描く画家と、彫り師、刷り師が別だったことはよく知られています。画家にとっては、信頼できる刷り師に出会えるかどうか、大事なポイントなのです。

展示作品の『若い女I』『若い女II』『蟹のよこばい』の3点は、女屋勘左衛門という刷り師の作品です。女屋はリトグラフの刷り師として著名な人で、実は群馬県前橋市の出身です。この3点は1963年3月に挙式した息子の結婚式の引き出物として制作されました。「蟹のよこばい」という言葉は、福沢が自らの画業を謙遜して語るお気に入りの表現です。

何かの記念に版画を制作して配るといのは、福沢が好んだ手法です。同じ作品を複数制作できるという版画の利点を活用したのです。

絵画と同じテーマの作品が多く見られますが、版画ならではの表現効果に気を配っているのが面白いです。作品と比較してみるのが面白いでしょう。

1992年制作の『石の女』が刷り上がったとき、福沢一郎は病の床にありました。サインすることもできず、完成2日後の10月16日に94歳で亡くなりました。

な団体から手を引いて独立独歩で活動しました。個展を中心に、その時々

のテーマで連作や大作を次々と発表しています。

戦前のパリには7年留学していましたが、戦後も世界中を回って取材しました。文明よりも未開の地を好み、アマゾンや南米、インドなどを回っています。それは、人間の本質的な姿を観察するの、着飾った表面的な文明の姿では物足りなかったからです。

地獄をテーマとしたとき、「天国や極楽に匙を投げる私も、地獄の悪魔や餓鬼亡者の群れが演ずる惨憺たるドラマには、異常な興奮を禁じ得ない」と語っています。

神話や古代史などもお気に入りのテーマでしたが、徹底的に調べて、専門家も顔負けの知識を身につける点は、福沢流でした。

福沢一郎略年譜

- 1898年 1月18日、群馬県富岡町(現富岡市)に生まれる。
- 1915年 旧制富岡中学(現富岡高校)を卒業。旧制第三高等学校(現東北大学)英法科入学。
- 1918年 旧制第二高等学校卒業。東京帝国大学(現東京大学)文学部に入学するも、彫刻家・朝倉文夫入門し、大学は中途退学。
- 1939年 独立美術協会の退会し、美術文化協会を結成。
- 1941年 超現実主義は共産主義につながるとして世田谷警察署に連行、7カ月間拘留。
- 1949年 美術文化協会を脱退。54年から57年まで、会の立て直しのため再度在籍。
- 1952年 渡欧。フランス、スペインをはじめ南米を回る(54年まで)。以後、度々海外旅行。
- 1957年 第7回芸術選奨文部大臣賞受賞。第4回日本国際美術展日本部最高賞受賞。
- 1958年 第9回毎日美術賞受賞。
- 1960年 多摩美術大学教授に就任。読売新聞ベストスリー選出作家第1位に選ばれる。
- 1964年 女子美術大学教授を兼任。
- 1972年 東京駅にステンドグラス「天地創造」を制作。富岡市名誉市民となる。
- 1974年 高崎市に開館した群馬県立近代美術館に作品51点を寄贈(76年にも9点を寄贈)。
- 1976年 群馬県立近代美術館にて「福沢一郎展」開催。
- 1978年 文化功労者に選ばれる。
- 1980年 山梨県立美術館に壁画「失楽園」制作。
- 1981年 伊勢崎市文化会館に壁画「騎馬民族征服王朝説」制作。
- 1985年 東京・こどもの城に壁画「大洪水」制作。
- 1988年 群馬県立近代美術館と世田谷美術館で「生誕90年 福沢一郎展」開催。
- 1990年 多摩市に東京国際美術館が開館し「福沢一郎記念室」が併設。
- 1991年 文化勲章受章。
- 1992年 群馬県名誉県民に選出。群馬県立近代美術館で「文化勲章受賞記念 福沢一郎展」開催。10月16日、死去。享年94歳。
- 1995年 富岡市に富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館開館。



蟹のよこばい(リトグラフ 1963年)



パリのアトリエにて



1974年 福沢一郎 地獄シリーズの作品に囲まれたアトリエにて

品質保持と省エネ化で、低温冷蔵庫を建設



低温冷蔵庫の外観

株式会社スギヤマ様は、平成29年10月に低温冷蔵庫を建設しました。この冷蔵庫の面積は350坪、総貯蔵量は1,000トンで、ゴボウを中心に多品目に対応しています。

建設プロダクトのヤマトは、本施設の建設にあたり、商品の品質保持と省エネ効果をもたらすウルトラ エコアイスシステムを設計・施工いたしました。

施設概要

施設名称 株式会社スギヤマ 低温冷蔵庫
所在地 埼玉県田高市下大谷沢2-3
TEL 042-984-0023(代)
FAX 042-984-0022
E-mail info@gobou.co.jp
冷蔵庫面積 510㎡×2
前室 58㎡
総貯蔵数 1,122パレット
約1,000トン



ウルトラ エコアイスシステムの外観



冷蔵庫の内部

お客様の声

株式会社スギヤマ 代表取締役社長 松山 国弘様



自社で冷蔵倉庫を持つことを考えたのは、東日本大震災がきっかけです。震災後、復興のダンブが急増してトラックの運転手が激減しました。荷物の積み下ろしなど物流費が大幅にアップしたので、何とかしなければならなかったと考えていました。

従来は、賃貸の冷蔵庫で年間約4,000万円の賃貸料を負担していました。賃貸料と物流費の上昇分を考慮すると、自社の冷蔵庫を造ったほうがコスト削減になると予想しました。また、ゴボウの品質を確保するためにも、一定の温度と湿度を保てる冷蔵庫の設置が必要でした。

ヤマトさんから提案のあった冷蔵庫は、これらの条件を満たすものでした。電気代は1カ月70万円くらいを想定していましたが、冬場で30万円くらい、夏場で70万円くらいになりそうなので、期待できる範囲に収まっています。また、現在のところ、温度、湿度が安定しており、普通の冷蔵庫よりもゴボウが乾かないので、満足しています。品質の確保にも効果があり、ウルトラエコアイスシステムは順調に稼働していると感じています。これからも想定通りの結果が出ることを期待しています。

会社紹介

豊かで健康的な食文化に貢献できる
企業を目指しています。

株式会社スギヤマは、青果卸業としてゴボウを主体に創業以来60年、仕入れから加工、商品納品まで自社工場にて一貫した生産ラインを構築してまいりました。

国内はもとより海外から原料調達、国内産地においては次世代につながる契約栽培による仕入れ、また独自の加工技術を駆使し、パッケージやカット野菜加工を行い、スーパーマーケット・各惣菜メーカーへの原料供給を行っています。より良いものを提供するだけでなく、情報の入手と市場への素早い対応、消費者が求めている商品づくりに新しい発想を持って取り組んでいます。

「健康・便利・安心」をモットーに各セクションの一人一人が豊かで健康的な食文化に貢献しようという日夜研究、努力しています。

今後も加工技術のノウハウを十分に活かした設備の充実を図るとともに、様々な消費者のニーズに素早く応えられるスギヤマでありたいと考えています。



松山社長 取材にご協力いただきありがとうございました。



株式会社スギヤマ様の本社工場全景